

業者を点描する

愛商連副会長 太田義郎

研究所のかたい月報に一風変わった巻頭のあいさつを送りたいと思います。

私は米穀業者です。町の米屋であります。米屋の業界の幹部でもあります。今日は先日の役員会の後の米屋の店主の茶飲み話を書きたいと思います。

役員会のあとは喫茶店で会議とは別の、本音の話と決っている。まずコーヒーを注文するとゴルフ談である（役員の中でゴルフをしないのは私一人といっている）。こうして遊びの話の後は、悲痛なおももちで営業不振が話されるのが常である。出口のない米店の営業のあれこれがボソボソと話合われる。今日（4月17日）役員会の後ことである。

中村区のAさんの話である。「うちのような米屋に従業員募集を出しても人が集まらない。大企業ならいざ知らず、大学卒がほとんどという世の中、来るわけがない。たまに来ると、とんでもない奴で、来て3日坊主もいかない2日で来ない。ひどいのになると採用決めた次の日から来ない。何度も同じだ。アルバイトニュースに出したがダメ。あきらめた。仕方がないので店舗を1つつぶした。あの店を閉鎖した。家族だけでやるしか方法がない。仕事をこなせないで経営の戦線の縮小しかない。」

「K市のK君とこは、3店舗ある店全部配達しない店にした。人が来ないし、人がない。大企業より高い給料で休日も多ければくるが、今のもうけなら大企業以上なんて出せない。仕方がないので近所のパートの奥さんでお持ち帰り専門にした。」

商売の話が少し出ると、通夜のようにしめっぽくなるので話題は例によってすぐゴルフとなる。ゴルフの会員権が、三好・南山で4千万6千万円。会員権が30%値下がりした。その原因はどうやら株の信用取引の穴うめらしいとのこと。「本業の米屋がもうからないから、遊んでいるゴルフ会員権売って、2、3千万円もとで株をやろうと思うが？いまが株の底値でないだろうか。どう思う。」Bさんが聞く。すると「もう少し待った方がいい。夏までだ。」と。

本業がうまくいかない。人手がない、売上がのびない。そして投機に手を出そうと右往左往する米屋の店主連中。政治・経済政策によってつくられていることを知らない。知っているかもしれないが、現実の政治は自分の力でなんともならないとあきらめている。町の店主たちのヒソヒソ話が続く。今日も、明日も？

（おおた よしろう 当研究所理事）

「トヨタ・グループの新戦略」の反響

本が出版されて1カ月余たちました。書店をはじめとして本が大きく広がって来ています。そして、読者からの手紙、本の紹介、書評と反響が出てきています。

研究所と新日本出版社にトヨタ自動車の青年労働者から手紙が届きました。以下紹介します。トヨタ自動車の労働者の実態がよくわかる内容となっています。

トヨタ自動車青年労働者からの手紙

私はトヨタ自動車の工場ラインで組立をやっているものです。私は「トヨタ・グループの新戦略」を読みまして会社内では発表していない記事が多く興味深く読みました。

現在トヨタ・グループの頂点にあるトヨタ自動車はひどいものがあります。私、会社の寮にいますが、定期的に自殺した人の事、しっそうしたもの、の事をよく聞きます。埠頭あたりで海に飛び込んだり、焼身自殺、屋上から飛び降りるものなど。季節労働者のしっそうは、めずらしい事ではありません。毎月、いや毎週といってよいでしょう（うそではありません）。

しかし、トヨタの広報は一切かくします。ここの工場はとりわけ問題が多いのです。トヨタ従業員は、この工場を「トヨタ自動車の終着駅」といい、ほかのところではつかえない人を送り込むところなのです。ラインの速さは、あるようでないようなものであり、事情ではやくしたり、社外のひとが見学に来た時などは、ラインを遅くします。

私たちは「課長」を「悪代官」、「人事」を「商人」、我々を「百姓」とよびます。昔にたとえるとこのようになります。

たまりかねたものが退職しようとするとう人事が、事情聴取し、こちらの言い分は一切きかず、「立つ鳥はあとをにごす」ようにします。そうすると辞めようと思っても気持ちのよいものではなくなってきます。そうするとしっそうしかなくなるわけです。

この工場は世間の目が届かないので無茶苦茶します。とりわけある組立の課長のすることは、みんなもなかされています。

みなさんが中心となって労働者いじめがなくなるようにお願いします。

組合は、野球でいいますと「解説者」の集まりです。

愛知労働問題研究所 宛

「トヨタ・グループの新戦略」を読み、感激させられました。というのはこの本に書かれている内容は、ほとんど会社内では隠されているものばかりなのです。これからも貴書のようなものがでることを深く希望するものです。

たとえば、トヨタ内での自殺は毎年何人も死んでいるはずですが、会社は一切発表なしなのです。しかし、口から口へと伝えられ、我々従業員は、知らないものはあまりいません。

労働組合は、現場から離れているものたちの集まりで何のためにもなりません。季節工の人が次から次へとやってきますが、夜逃げ同然で帰ってゆきます。それも、2、3日でです。

出社拒否も多く、寮には呼び出しがよくかかります。

トヨタの人事が恐れるのは重役でもなく、一番はマスコミなのです。たとえば、ある期間工の人が仕事はかどらず組長に「やる気のないなら、来なくてもよい」といわれて、その人が人事に「ここで受けた待遇を新聞に投書する」と言ったところ、すぐ楽な職場に配置転換したそうです。トヨタの人事はおかしいです。

従業員には、共産党よりのものが多いのも事実です。トヨタが今の労働者へのやり方を変えない限り、自殺、精神異常、しっそうを繰り返すだけでしょう。

マスコミがもっとたたかべきなのです。

新日本出版社 宛

「トヨタ・グループの新戦略」 出版記念の集い

主催 愛知労働問題研究所

と き 5月20日（日）午後1時30分から4時30分まで
と ころ 愛知県青年会館（221-6001）（納屋橋・クラウンホテル南）

内 容 「トヨタ・グループの新戦略」を読んで
報告 都丸泰助（日本福祉大）
佐藤義淳（トヨタ職自連）ほか

報告をふまえながら、本の反響、書評なども紹介して、参加者の自由な発言・討論を行い交流も深め合いたいと思います。

参加費 300円（会場費・資料代）

*集い終了後懇親会を予定しています。

愛知労働問題研究所編

『トヨタ・グループの新戦略』

日本共産党鈴木自工委員会委員長 青池昌道

八五年G5の「プラザ合意」による円高政策と「経済構造調整」政策下での日本独占資本の新たな戦略展開は、日本経済に二つの顔——「金持ちニッポン」と国民生活の「新しい貧困と格差の拡大」——をつくりだした。国民生活には、過労死や土地・住宅問題などに象徴される先進国で例をみない異常な事態、七〇年代、八〇年代前半の事態と比べても比較にならない深刻な労働実態がひろがっている。

日本の自動車独占資本が本格的な多国籍企業としての戦略を展開し、莫大な資本の蓄積で巨大企業として成長していく一方で、労働者と下請企業、地域経済に新たな深刻な犠牲を転嫁しつつ深部で産業「空洞化」を進行させているいま、その独占体の中核を担っているトヨタ・グループの戦略展開に焦点をあてて、労働者・国民の側に立った調査・研究、その結実である本書の刊行に大きな意義を感じる。一独占体とのたたかいととまらず、日本独占資本の本格化する多国籍企業とのたたかいに大いに役立つと確信する。

とくに、「単に研究者による『上から』の調査・研究ではなく、第一線の現場で働いている労働者と下請業者からのヒアリングを中心」にした調査・分析は実践的な魅力がある。

本書は四部だて九章までの構成になっている。第I



部では、「内需ブーム」と「空洞化」という今日的課題と本質的な産業動向の分析をつうじて円高・「構造調整」下の自動車産業の戦略の基本方向が解明されるとともに、それを支えてきた労資関係が概観されている。第七章でもふれられるトヨタ労組の「中長期活動方針」の分析は、日本独占資本の多国籍企業戦略下の新たな労資関係の方向として興味深い。

第II部では、トヨタの「合理化」と職場の状況、下請企業の動向と労働者の実態などが長期の調査にもとづく豊富で克明な内容で展開され、「合理化」の手法、職場・下請けの過酷な実態、労働者支配の方法、矛盾や支配の動揺、切実な要求などさまざまな角度からリアルな分析がされ、トヨタの新戦略をみる核心部分となっている。

第III部では、トヨタ経営戦略が歴史的に跡づけられ、新戦略の方向が総括的に解明され、「合理化」の現局面と地域経済への影響、そこで進行している産業「空洞化」問題が深く検討されている。

第IV部では、トヨタ・グループへの民主的規制の方向が提起され、座談会「トヨタ総行動」のたたかいと成果」と併せ学べるものとなっている。

多くの人々に読まれることを期待する。

(新日本出版社 一八〇〇円〈税込〉)

あいち職場の健康問題研究会

夜勤労働と過労死—第11回定例研究会

第11回「あいち職場の健康問題研究会」が4月14日(土)午後2時より愛労連にて28名の参加で開かれました。テーマは、「夜勤労働と過労死」で内容は、7人の方からの報告と討論、山田信也先生からのコメントでした。

最初に、大同特殊鋼の中沢さんから1カ月に3人の過労死、4年余りに67名の在職中死亡をだしている職場の2交替夜勤の実態を「在職中死亡をなくす会」(準)のアンケート活動と合わせて報告されました。次に、住友軽金属の近藤さんから住友軽金属の夜勤2交替制を「合理化」攻撃と人間らしく生き働く視点からの問題として報告された。2人の報告に関連して全体で討論を行い、そこでの論点は、夜勤の健康と家族生活に及ぼす影響、夜勤をせざるをえない低賃金の構造、夜勤交替のシフトの状況、夜勤労働に対する労働者の意識、など活発に論議されました。

続いて、豊田自動織機の藤枝さんから、トヨタ関連の夜勤労働の実状と夜勤を規制していく必要性について話されました。次に、全動労の木下さんから、自分の交替勤務の状況をふまえてJRの乗務の交替制シフトとそこでの労働実態と生活への影響、そして、全動労としての要求と政策について報告されました。マスコミ関係として毎日新聞の磯貝さんからは、印刷職場の交替制の特徴と労働内容、夜勤の及ぼす影響と労働組合のとりくみについて話されました。医療からは医労連の小松さんが、特に看護労働の夜勤労働の実態を看護白書のアンケート調査や労働組合のとりくみを通じて報告され、今後の夜勤規制の要求と政策も合わせて話されました。最後の報告は、名水労の百合草さんから名水労の夜勤規制のとりくみと今日の問題点についてでした。後半の討論は時間の都合で各報告後若干と最後に参加者から感想と意見として発言いただきました。

主な柱は、夜勤交替の規制について要求と政策づくり、夜勤労働の最近の動向とILO、夜勤規制の長期展望と当面する運動課題、在職中死亡・過労死の分析視点、などでした。

この研究会をふまえて5月27日に「夜勤シンポ」を開きます。ぜひ参加を。

第12回あいち職場の健康問題研究会

と き 6月16日(土) 午後2時から5時30分まで

ところ 名古屋市婦人会館(331-5288・地下鉄東別院下車東へ徒歩5分)

内 容 最近の過労死判決をめぐって

報告 水野幹男(名古屋過労死弁護団)

労働安全衛生委員会活動

報告 名古屋水道労働組合

コメント 山田信也(名大医学部公衆衛生学)

参加費 300円(研究会運営費)、個人会員の方は無料
資料代は実費いただきます。

*今回は最近の過労死判決の特徴と争点、問題点を愛知や大阪などの判決を事例に取り上げて過労死弁護団の水野幹男さんから報告していただきます。それと、労働組合の労働安全衛生委員会活動についてすぐれた活動をつくりだしている名古屋水道労働組合からの実践報告です。
多数のご参加をお待ちしています。

*過労死認定をすすめるつどい

5月26日(土) 午後1時30分 県中小企業センター7F(名古屋駅前)

*夜勤問題シンポジウム

5月27日(日) 午後1時30分 全労連自治労愛知県本部大会議室

愛知労働問題研究所第2期プロジェクト研究 第2回「多数派形成」調査・研究会

研究所の第2期目の研究プロジェクトとして準備してきました「多数派形成」調査・研究会が関係する方々の協力をえて、2回の定例研究会の成果をふまえて4月から正式発足しました。4月2日に準備会を、27日に第1回研究会を、「多数派形成」調査・研究会活動内容とプラン(長沢)、文献研究—山本興治「転換期の労資関係」(猿田)の内容で行いました。第2回の研究会を以下のように予定しています。参加希望、ご意見などありましたら、研究所までご連絡下さい。

記

と き 5月25日(金) 午後6時から8時45分まで

ところ 名古屋市婦人会館(331-5288)(地下鉄東別院下車東へ徒歩5分)

内 容 文献研究

著 学 「第一組合」お茶の水書房、1980 の

第1、2、3(総括)、5(日本ロール)、11章

報告者 山下東彦(当研究所所員)

*報告と討論を行います。研究会の後に懇親会を予定しています。

愛知労働問題研究所部会研究会

第2回経営分析研究会

経営分析研究会の準備会を昨年に行い、1月28日に49名の参加で山口孝(明治大学)先生による「働く者の経営分析教室」を大きく成功させてきました。

教室の成功を受けて「経営分析研究会」を専門家の谷江武士(名城大)先生の協力をうけて3月から発足させました。3月の第1回目は16名の参加で谷江先生「東京電力の経営分析」を報告してもらい論議を深めました。第2回の研究会を以下ご案内します。ぜひ多数ご参加下さい。

記

と き: 5月18日(金) 18:30~21:00

ところ: 名古屋市婦人会館(地下鉄東別院下車東へ徒歩5分331-5288)

内 容: 新日鉄を職場から経営分析をして

一問題意識・到達点と課題

報告 辻井健児(新日鉄労働者)

*今回は職場の活動家の経営分析の視点、課題、到達状況と活用について辻井さんから問題提起をもらい、みなさんと協議したいと思います。
多数の参加を期待しています。

愛知労働問題研究所定例会

テーマ

全労連・愛労連と90国民春闘

報告

手ごたえのある90国民春闘をたたかって

阿部 精六（愛労連事務局長）

90国民春闘と全労連・愛労連のたたかい

伊藤 欽次（当研究所理事・事務局長）

*報告の後に全体で討論をします。

日時 6月22日（金）午後6時30分から8時50分

場所 名古屋市婦人会館（331-5288）（地下鉄東別院下車）

参加費 300円（研究会運営費）、研究所個人会員無料、資料代実費

*今回はたたかうナショナルセンター全労連・愛労連確立のもとでの最初の国民春闘です。90国民春闘の総括を研究所の定例会として企画しました。多数ご参加いただき報告と合わせて積極的に討論したいと思います。

*遅れていました研究所年報第2号5月下旬刊行です。

編集部から

研究所月報4月から定期発行できるように努力しています。会員のみなさんの記事・投稿・意見などどうぞお寄せください。

連絡先： 〒456 名古屋市熱田区三本松8-2

愛知労働問題研究所 電話・FAX 052(871)5603

（月～金 午前10時～午後5時まで）

*研究所は専従体制ではないので、所員が交代で午前10時から午後5時まで常駐しています。都合で外出する時もありますので、連絡は、午前中の方が確実です。FAXは電話番号と同じで24時間受信できます。

*月報23号山下さんの巻頭文 相対的賃金→相対的高賃金